

第10節 関連団体

1 公益社団法人大牟田市シルバー人材センター

(1) シルバー人材センターの概要

<設 立>

法人格 公益社団法人
設立許可 昭和61年2月25日設立
昭和61年4月 1日許可

<目 的>

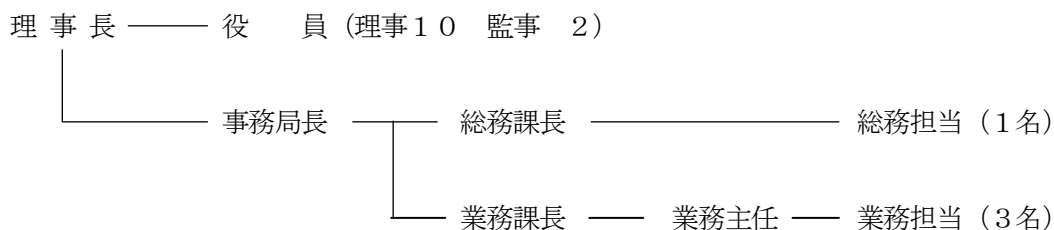
働く意欲と能力をもった定年退職者その他の高齢退職者（60歳以上）に、臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、組織的に提供することによって、高齢者の職業生活の充実と福祉の増進に資するとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

<事業内容>

- ① 臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものを除く）を希望する高齢退職者のための就業機会の確保と組織的な提供
- ② 臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものに限る）を希望する高齢退職者のための職業紹介事業及び一般労働者派遣事業
- ③ 高齢退職者に対する臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施
- ④ その他高齢退職者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に関し必要な業務

<機 構>

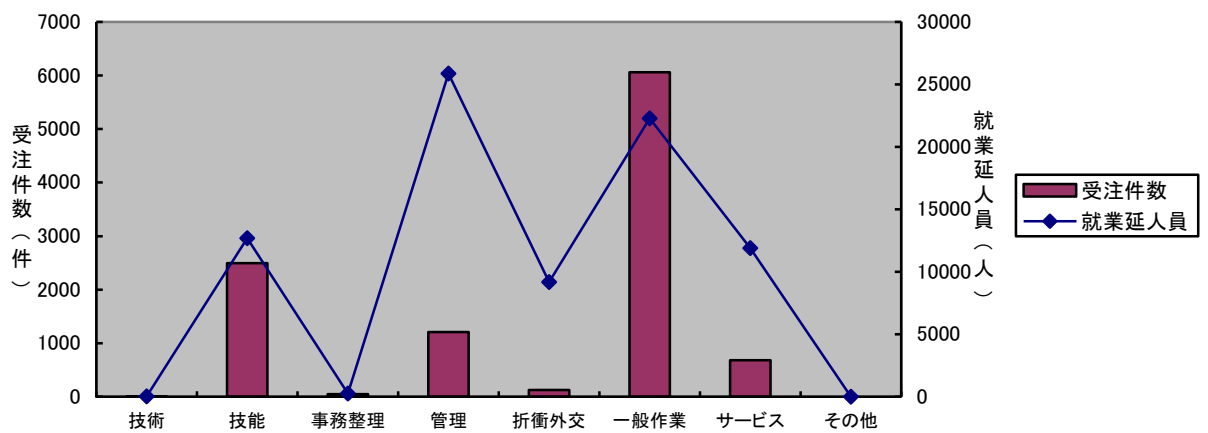
(平成27年4月1日現在)



(2) 平成26年度事業実績及び会員数

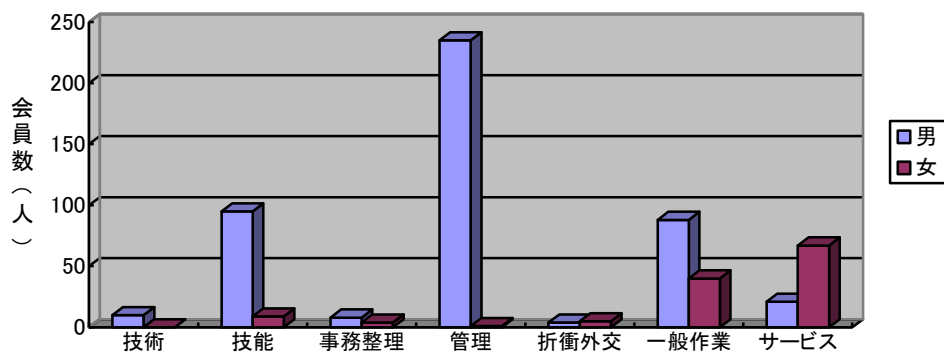
①事業実績（職種別）

区分	受注件数	就業延人数	事業収入	構成比
技術	6	17	18,390	0.1%
技能	2,492	12,703	68,446,973	23.8%
事務整理	50	246	620,681	0.2%
管理	1,206	25,883	94,823,973	32.9%
折衝外交	126	9,183	12,207,450	4.2%
一般作業	6,058	22,270	76,091,901	26.4%
サービス	681	11,896	35,657,783	12.4%
その他	0	0	0	0.0%
合計	10,619	82,198	287,867,151	100%



②会員数（希望職種別）

希望職種	男	女	計	構成比
技術	10	0	10	1.7%
技能	95	9	104	17.7%
事務整理	8	4	12	2.1%
管理	235	1	236	40.2%
折衝外交	4	5	9	1.5%
一般作業	88	40	128	21.8%
サービス	21	67	88	15.0%
計	461	126	587	100.0%



1) 事業実績

一般家庭、事業所、公共団体等から仕事を受注し、事業を実施した。地域経済の低迷や厳しい雇用情勢の中ではあるが、経営の健全化に向けた様々な取組を継続実施した結果、事業収入は約2億8千7百万円と、前年度と比べ4.4%増加した。既存事業及び新規事業の維持・拡大、派遣事業の開拓等に取り組んだ。

2) 普及啓発事業

(1) センター事業の普及啓発活動

- ①会員の拡大及び就業の拡大を図るため、月2回の入会説明会と月1回の登録説明会、市民向けのパンフレット増刷、無料情報誌「どがしこでん」でのPR等を行った。また、「3R活動推進事業」では、市民親子体験教室や社用車のステッカー、チラシ等による普及啓発活動に取り組んだ。
- ②十日市をはじめ、新幹線朝市、よかもん商店街、募金百貨店、福岡でのシルバーフェスティバル等に参加し、リサイクル事業の品物や生きいきシルバー農園の農作物の販売を行い、センター事業の普及啓発に取り組んだ。
- ③10月のシルバー人材センター全国普及促進啓発月間に、大牟田市役所剪定奉仕活動、市長及び市議会議長への支援要請行動、7年ぶりの「わくわくシルバーフェスタ」を実施した。
- ④公共職業訓練リサイクル科の前期及び後期修了生の作品展「技能祭」による普及啓発を行った。
- ⑤地元新聞社へセンター活動の情報提供と取材依頼を行った。

(2) 社会参加・ボランティア活動

- ①「大蛇山まつり」市民総踊りへの参加と会場の清掃奉仕活動
7月26日(土) 市民総踊りへの参加 (参加者50人)
7月28日(月) 夏祭り会場清掃奉仕 (参加者82人)
- ②9月27日(土) 高齢者生きがい創造センター周辺の樹木剪定、除草作業
剪定班39人・除草班40人・清美班9人・事務局9人 (参加者101人)
- ③10月4日(土) 市役所の樹木剪定、清掃奉仕活動
剪定班39人・清美班9人・事務局9人 (参加者57人)
- ④12月19日(金) 旧三井港倶楽部の松の剪定奉仕活動
剪定班37人・除草班4人・事務局3人 (参加者44人)

3) 安全・適正就業推進事業

「安全はすべてに優先する」を基本として、安全・適正就業委員会の開催、安全パトロールの実施、連合会安全就業促進大会への参加等を行った。また、夏季には、各職群の班長会議で夏場の熱中症対策と事故防止の注意喚起を行った。26年度の就業中の傷害事故は12件で、前年度より8件増加、物損事故は2件で、前年度より2件減少した。

4) 相談事業

①就業相談の実施

シルバー人材センターへ入会を希望する地域の高齢者を対象に、毎月2回の入会説明会及び毎月1回の登録説明会を実施した。また、福岡県立大牟田高等技術専門校から受託している公共職業訓練生への就業相談を行った。

5) 研修・講習事業

【重点研修】

(1) 接遇講習

- ① 駐車場整理会員（6月27日 参加者22人）
- ② 広報配布会員（7月23日 参加者82人）
- ③ 家事援助会員（10月29日 参加者18人）

【職群別研修】

(1) 剪定班

① 新人研修

新会員7人を対象に、服装、道具、安全対策等について、担当職員による研修を実施

② 初級剪定講習（5月8日 参加者5人）

入会1年未満の会員を対象に、個人住宅において、剪定班三役が講師となり講習を実施

③ 松の剪定講習会（12月19日 参加者37人）

全剪定会員を対象に、旧三井港倶楽部で三役が講師となり、松の剪定講習会を実施

(2) 除草班

新入会員5人を対象に、服装、道具、安全対策等について、担当職員による研修及び作業リーダーによる実務講習会を実施

(3) 子育て、福祉・家事援助

① 県連合会主催の会員研修会（2月14日 参加者6人）

② 県連合会主催の筑後ブロック会員研修会（3月4日 参加者5人）

6) 調査研究事業

公益社団法人としての経営の健全化を進めるために、剪定や除草の人材確保・後継者育成、団塊世代の入会促進等について、先進地の情報収集及び視察を行った。

(1) 県連合会主催の事務局長会議及び担当者研修会での情報収集

(2) 筑後ブロック研修会

① 会計担当研修（7月25日 参加者1人）

② 業務担当研修（2月13日 参加者2人）

③ 事務局長先進地視察（10月2日～3日 軽度生活援助事業及び就業拡大について）

2 社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

根拠法令等	社会福祉法（第109条）	所管課	保健福祉総務課 地域福祉推進室
-------	--------------	-----	--------------------

(1) 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置付けられ、住民の社会福祉に対する関心と理解を深め、地域における社会福祉の増進に努めるという理念のもとに、全国の都道府県市町村に設立されている。民間組織としての「自主性」と住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という2つの側面をあわせ持った組織で、地域住民による福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施等を行い、地域福祉活動の中心的な役割を担っている。

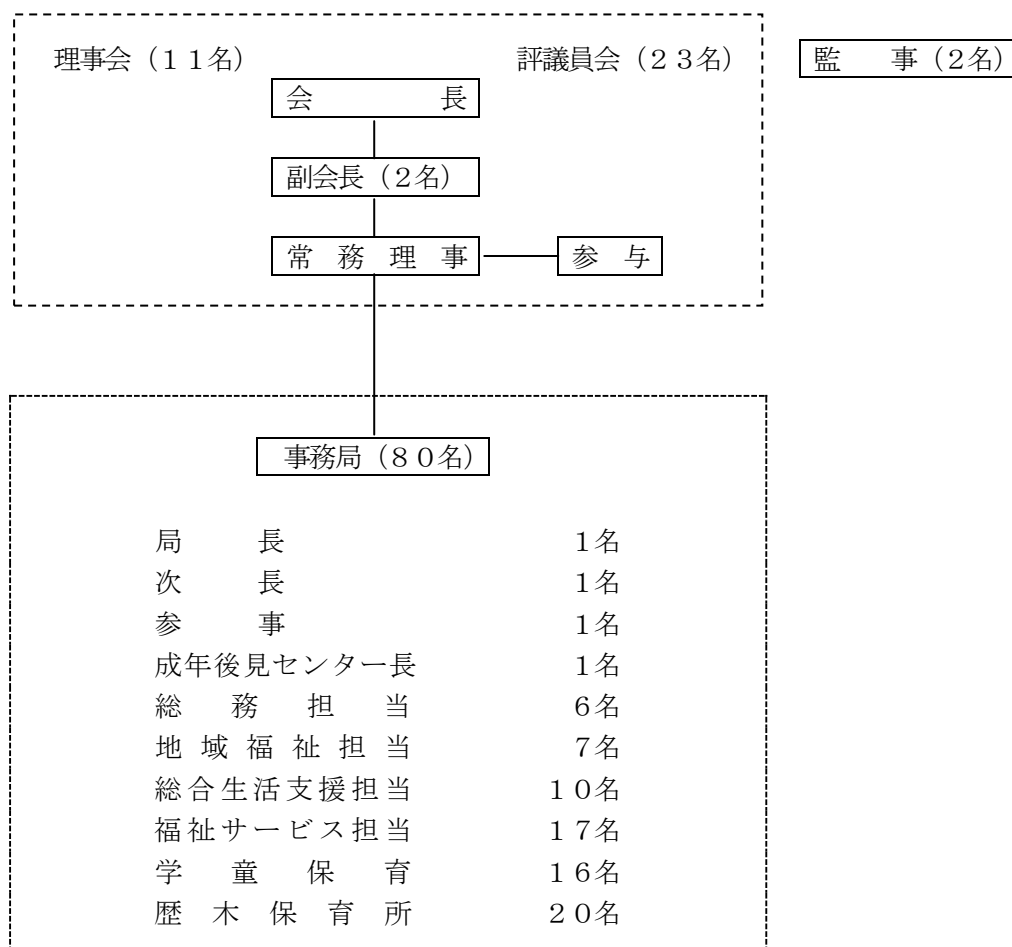
平成12年に社会福祉事業法が大幅に改正され社会福祉法となり、その第109条では、社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と明記された。

大牟田市社会福祉協議会は、昭和26年に任意団体として発足し、昭和47年に社会福祉法人の認可を受け、以来、大牟田市の地域福祉推進役として住民のニーズにあった様々な事業活動を展開している。

現在は、「地域福祉推進と絆」をキーワードに、地域における様々な生活上の諸問題を地域全体の課題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決を図る心ふれあう「誰もが安心して暮ることができるまちづくり」を目指し、関係機関・団体および行政等と協働して、様々な福祉課題の解決に積極的に取り組んでいる。

(2) 社会福祉協議会の機構と組織構成

(平成27年7月1日現在)



(3) 社会福祉協議会の実施事業

経済情勢や雇用環境は緩やかに回復している一方、孤立死や自殺、ひきこもりなどの社会的孤立の問題、経済的困窮や低所得の問題、虐待や消費者被害といった権利擁護の問題など、地域における生活課題は深刻化、拡大している。しかしながら、少子・高齢化の一層の進展や生活様式の変化に伴い、地域社会や家庭の様相は大きく変容し、地域や世代間で支えあう力は弱まってきている。

こうした中、国の「社会保障と税の一体改革」では、世代間・世代内の公平の確保や次世代へ引き継げる「全世代型」社会保障の構築に向けた取り組みが進められ、具体的な改革の方向性としては、子ども・子育て支援の強化や社会保険制度（年金・医療・介護）におけるセーフティネット機能の強化、医療・介護サービス保障の強化、貧困・格差対策の強化等が挙げられた。

特に、「貧困・格差対策の強化」では、平成27年4月から「生活困窮者自立支援法」が施行されることになり、本会においては、補助金を活用し社協としての生活困窮者支援のモデル構築等についての調査研究を実施するなど、施行に先立つ準備を進めてきた。

また、平成26年度は、第2次大牟田市地域福祉実践計画（平成22年度～26年度）の最終年度、かつ第3次大牟田市地域福祉実践計画（平成27年度～31年度）の策定年度であり、第2次大牟田市地域福祉実践計画における達成状況の確認と評価等の総括を行うとともに、第3次大牟田市地域福祉実践計画策定にあたっては、地域福祉活動のより一層の推進はもとより、先に述べた生活困窮者対策や社会福祉法人の地域貢献事業推進等を新たに盛り込んだ。

上記の状況を踏まえ、平成26年度の事業を第2次地域福祉実践計画の3本の活動指針に沿って報告する。

活動指針1「つながり、支えあいのある“あたたかい地域”を実現します！」

校区社協会長連絡協議会や民生委員・児童委員協議会と協働し、福祉委員による要援護者の見守り・訪問活動を各校区で実施するとともに、サロン連絡会の開催などにより、ふれあいサロン活動の内容充実に向けた支援を行った。

子育て支援においては、平成27年3月にくぬぎ保育所の新園舎建設を起工し、今後10月の完成に向けて整備を進めていくこととしている。また、市からの受託事業であるファミリーサポートセンター運営事業においては、実績が前年度に比べて大幅増となった。

活動指針2「小さな声にも応える福祉サービスを提供し普及に努めます！」

おおむたキャロットサービス（住民参加型福祉サービス）は、年間活動件数が順調に増加しているが、介護保険制度改正により、さらなる利用増が予想されることから、養成講座の開催など協力会員の拡大に努めた。

総合相談事業については、生活福祉資金等貸付事業や日常生活自立支援事業の実施に加え、平成26年4月に市からの委託を受けて成年後見センターを開設し、成年後見制度の周知や市民後見人の育成に取り組んだ。

介護保険事業では、平成26年12月にオープンサロンと小規模デイサービスを併設した、まちの縁側「築町えいる」を開設し、今後まちなかのにぎわい創出に寄与していきたいと考えている。

広報については、ホームページを全面的に刷新し、迅速かつ的確でわかりやすい情報提供に努めた。

活動指針3「誰もがまちづくりに参加できる活動をすすめます！」

大牟田市総合防災訓練の実施に合わせ、災害ボランティアセンターの設置訓練を行うとともに、大正小学校で防災運動会を開催するなど、地域の防災意識の向上等に努めた。

共同募金運動では、個別募金が減少する中、「募金百貨店プロジェクト」や「赤い羽根自動販売機」の設置に力を注いだ。また、補助金を活用した地域福祉におけるファンドレイジングについての調査研究に取り組み、社協としての財源確保のあり方を検討した。

(4) 校区社協活動への支援

① 校区社協会長連絡協議会の充実

ア 校区社協会長研修会の支援

校区社協会長が大牟田市の地域福祉の現状等を捉え、連携を深めることにより、自校区における活動の充実・向上を図ることを目的に校区社協会長連絡協議会が実施する研修会を支援した。内容としては、まちづくり協議会の設立など、校区社協を取り巻く状況が変化していく中、校区社協の役割と連携づくり等について事例発表を通じて意見交換を行い、活動の目的・内容及び組織構成のあり方について情報共有を図った。

また、市社協が運営する成年後見センターの支援内容について研修を行い、判断能力が不十分な人の支援について理解を深めることができた。

- 【開催日】 平成26年8月11日（月）
【研修先】 大牟田市総合福祉センター 大会議室
【内容】 《研修》「成年後見制度及びセンターについて」
総合生活支援担当 友添 奈津紀（社会福祉士）

《事例発表》「校区社協の役割と連携作りについて」
天の原校区社協会長 三浦 紀子さん

【参加者】 18名

イ 校区社協会長視察「防災運動会」研修会

校区社協活動において自然災害等の緊急時に備えた先進的な取り組みについて見識を深めることで、日頃の地域福祉活動の充実を図ることを目的に校区社協会長会の研修を支援した。

防災運動会とは、平成19年に社会福祉法人岐阜アソシアが始めたもので、いろいろな機関と連携しながら、子どもから高齢者、障害者が一緒になって防災に関連した協議を行うことで、地域での防災意識の向上を図るとともに、障害を持っていても協働できることに気づき、住民同士の支え合いの大切さを学ぶことができるという効果が期待できるものである。

参加者からは、楽しみながら防災の知識を習得でき、全員で助け合いながら、譲り合いながらの暖かい雰囲気を経験できたことは素晴らしかった等の感想があった。また、この取り組みを各校区で開催するきっかけづくりとなったのではないかと、との意見もあり、住民同士の支え合いの大切さを学ぶことにおいて有意義な視察研修となった。

②地域リーダー合同研修会の開催

地域リーダーである校区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、町内公民館連絡協議会、まちづくり協議会の各会長が一堂に会し、「これからの地域社会の創造」をテーマに、地域における様々な福祉活動の推進方法を研修するとともに、各校区の情報交換の場とすることを目的に開催した。各班にわかれてワークショップをすることで、地域課題について共通認識を図ることができ、全員参加によるまちづくりの必要性について理解を深めることができた。

【開催日】 平成26年11月26日（水）

【会場】 大牟田ハイツ 芙蓉の間

【参加者】 約100名

【内容】 **第1部** 実践・事例発表

コメンテーター さわやか福祉財団プロジェクトリーダー 木原 勇氏

①「現代社会に潜む地域課題」

吉野地区地域包括支援センター 緒方 弘征さん

②「これからの地域社会のあり方」

天の原校区民生委員・児童委員協議会会長 江口 良夫さん

③「人口減少とこれからのまちづくり」

大牟田市企画総務部総合政策課 宮川 浩則さん

第2部 ワークショップ

メインファシリテーター

久留米大学文学部社会福祉学科 准教授 片岡 靖子さん

《テーマ》

「2025年の私たちの地域社会は・・・」

1グループ7～8名で10班構成

各班ファシリテーター

地域包括支援センター職員、市役所職員、市社会福祉協議会職員等

(5) 小地域ネットワーク活動の充実

地域における小地域ネットワーク活動を活性化していくために、平成18年度に福祉委員制度が発足した。各校区の世帯数に応じ、概ね100～150世帯に1人の割合で配置された福祉委員が、見守り・訪問・支援活動を行っている。

平成26年度は第5期福祉委員の改選期にあたり、各校区社協会長より新任福祉委員119名が推薦され、市社協より委嘱された。平成26年7月8日～12日（5日間）にかけて、見守り・訪問活動を中心とした小

地域ネットワーク活動に対する理解を深め、福祉委員活動の意義を理解していただくことを目的に新任福祉委員研修会を開催した。また、各校区において、小地域ネットワーク活動における福祉委員と民生委員・児童委員等との連携等をテーマに実践活動報告会や意見交換会等を下記のとおり実施した。

(6) ふれあいサロン活動の充実

現在、サロン拠点は、市内に約130カ所となり、今後も増加傾向である。サロンは、地域で高齢者や障がい児・者、子育て中の方が、生きがいと元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域住民同士のつながりを深める自主活動の場である。

①ふれあいサロン連絡会の開催

サロン同士の情報交換や活動紹介などの場を設けることにより、サロン間の交流を図り、活動の活性化につなげることを目的に開催した。

ア 第1回 サロン連絡会

前年度サロン代表者を対象に実施したアンケートの結果をふまえ、サロンのお世話役が抱える課題解決や活動に対するモチベーションの向上につなげることを目的に講演会を実施した。講演はレクリエーションを交えて行われ、参加者からは「楽しみながら話を聞くことができた。」などの声が多く聞かれた。

【開催日】 平成26年10月16日（木）

【研修先】 イオンホール

【内容】 「これなら私にもできるかも！？ ～サロン活動を楽しむコツ～」

講師 あそび工房 もくもく屋 事務局長 田川 雅規さん

【参加者】 約120名

イ 第2回 サロン連絡会

サロン活動に関する情報交換を行い、今後の活動の活性化につなげることを目的に開催した。情報交換が活発に行われるように、各回とも1班5～6名で7班構成として班分けを行い、「自分たちのサロンのよさ」をテーマに意見交換を行った。その後、各班で出された意見をまとめ、発表してもらうことで、参加者全員への情報共有を図った。意見交換の時間を長めに設定したことにより、参加者からは「今後のサロン活動の参考になった。また是非参加したい。」などの声が聞かれた。

【開催日】

日 時	場 所	参加者数	対 象 校 区
3月17日 午前	総合福祉センター（大会議室）	36人	みなと・駿馬南・天の原・白川・三池
3月17日 午後	総合福祉センター（大会議室）	31人	天領・大正・中友・平原・羽山台
3月20日 午前	総合福祉センター（大会議室）	37人	上官・大牟田・銀水・上内・吉野
3月20日 午後	総合福祉センター（大会議室）	34人	駿馬北・玉川・明治・高取・倉永・手鎌

【対象者】 サロン代表者・お世話役・各校区社協会長

【内容】 グループにわかれての情報交換

【参加者】 約138名

(7) 子育て支援事業

①子育てきらりフェスタの開催

子育て支援の一環として、子育て中の家族が楽しめるイベントを実施。親子でふれあう“セラピューティック・ケア”やプレーパーク、障がいをテーマにした講演会や父親による読み聞かせ、また、ボランティア団体や母親たちの特技や意見を取り入れ、協働でのイベントも実施した。さらに、募金百貨店フェアと同時開催とすることで、一層の賑わいを創出した。

ア 子育てきらりフェスタ Vol. 17

【日 時】 平成26年8月3日（日）

【会 場】 大牟田市総合福祉センター

- 【内 容】 <和 室>親子で楽しむインファントセラピー
 講師：NPO 法人日本セラピューティック・ケア協会
 <中会議室・研修室等>各種イベント（スイーツデコ体験・バルーンアート体験・竹のおもちづくり・雑貨販売・フリーマーケット）
 <大会議室>よかもん商店街による出張販売
 協力：little mama、登録ボランティア（有明・里山を守る会、猿渡 豪さん）
- 【参加者】 約200名

イ 子育てきらりフェスタ Vol. 18

- 【日 時】 平成26年9月13日（土）
 【会 場】 諏訪公園文化交流ゾーンイベント広場
 【内 容】 プレーパーク（「自分の責任で自由に遊ぶ」遊び場）
 シャボン玉・段ボール遊び・水でっぼう等（協力：プレーパークおおむた遊ばせ隊）
 ※赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバルと同時開催
- 【参加者】 約300名

ウ 子育てきらりフェスタ Vol. 19

- 【日 時】 平成27年1月25日（日）
 【会 場】 大牟田市総合福祉センター
 【内 容】 <大会議室> 講演会「一歩成長の喜び」
 講師：障がい児教育アドバイザー 星先 薫さん
 <多目的ホール> パパの読み聞かせ、託児等
 <中会議室> 絵本の世界：絵本「からすのパンやさん」の一場面の再現
 <和室> スイーツデコ、フリーマーケット（協力：little mama）
- 【参加者】 約200名 ※募金百貨店フェアと同時開催

②子育てサロン“マザーリーフ”開催

子育て中のお母さん同士の情報交換の場や子供とのふれあいの場として毎週水曜日（第5週は除く）に開催した。

■内容：読み聞かせ、体重・身長計測、お誕生会、季節の行事、自由遊び等

（参加者数） ※参加者数は、前年比100.5%（前年度776名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
大人	22	18	17	19	20	23	26	28	35	32	18	32	290
子ども	34	23	24	28	33	33	35	37	48	47	25	50	417
ボランティア	4	11	6	7	8	5	5	5	7	5	5	5	73
計	60	52	47	54	61	61	66	70	90	84	48	87	780

③チャイルドシート貸出事業

貸出状況（保有台数：チャイルドシート26台、ジュニアシート9台）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	22	14	10	21	24	18	13	14	19	7	6	16	184

※件数は、前年比80.7%（前年度228件）

④情報掲示板「ベビクル」の状況

使わなくなった育児用品をゆずりたい人から必要な人に渡すための情報を、ホームページを通して情報提供している。3月末までの取扱い件数は、3件（相談含む）。

主な育児用品は、ベビーシート、ベビーカー、チャイルドシート等。

⑤「産前・産後ケアサポートママ養成講座」の実施

近くに親兄弟や頼る人もなく一人で産前産後の不安定な時期を過ごさねばならない方へ日常生活をお手伝いすることで、安心して楽しく育児ができるよう、サポートママ（有償ボランティア）を養成した。

【日程・内容・講師・受講者数】

	日 時	内 容	講 師	受講者数
1	10/24（金）13:30～15:30	住民参加型福祉サービスについて	NPO法人地域たすけあいの会 田中 将太さん	19
2	10/31（金）13:30～15:30	現代の子育て事情 (ファミサポ協会員養成講座と兼ねる)	甘木山学園 坂口 明夫さん	12
3	11/7（金）13:30～15:30	ボランティアの意味・意義 (有償ボランティアの研修と兼ねる)	NPO法人ドネルモ 宮田 智史さん	27
4	11/14（金）13:30～15:30	産前産後の母子の状況 サポートママについて	児童家庭課（植田・浦上さん）、 協力会員・光安さん、 社協	11

(8)ファミリー・サポート・センター事業(市受託事業)

①ファミリー・サポート・センター会員数

区 分	平成25年度末	平成26年度登録	平成26年度退会	平成27年3月末	今年度増減
利用会員	688人	70人	25人	733人	45
協力会員	75人	8人	0人	83人	8
相互会員	75人	1人	1人	75人	0
合 計	838人	79人	26人	891人	53

②講座の開催

ア 第1回 協力会員養成講座

【期 間】 平成26年6月13日(金)～6月27日(金) 全5回 (計10時間)

【会 場】 大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる

回	日 程	講 座 内 容	講 師	受講者数
1	6月13日	開講式 センターの仕組みについて 事例発表	アドバイザー 島野明子さん(協力会員)	9人
2	6月18日	子どもと楽しく遊ぼう	くぬぎ保育所 山田所長	8人
3	6月20日	子どもの救命救護法	大牟田市消防本部	7人
4	6月25日	子どもの心と体の発達について学ぼう	誠修高校 多田隈清美さん	7人
5	6月27日	子どもの食事と健康 今後の活動について	大牟田市健康対策課	12人

【新規登録】 協力会員5人 相互会員1人 (全5回講座を受講終了者のみ登録)

イ 第2回 協力会員養成講座

【期 間】 平成26年10月31日(金)～11月18日(火) 全6回 (計12時間)

【会 場】 大牟田市総合福祉センター (第1回)

大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる (第2回～6回)

回	日 程	講 座 内 容	講 師	受講者数
1	10月31日	開講式 現代の子育て事情	甘木山子育て家庭支援センター 坂口明夫さん	9人
2	11月 4日	センターの仕組みについて 事例発表	アドバイザー 大野まゆみさん(協力会員)	9人
3	11月 6日	子どもの救命救護法	大牟田市消防本部	11人
4	11月11日	子どもと楽しく遊ぼう (子どもの世話と遊び)	くぬぎ保育所 山田所長	6人
5	11月13日	子どもの心と体の発達について 学ぼう	誠修高校 多田隈清美さん	5人
6	11月18日	発達段階に応じた子どもの食事 今後の活動について	大牟田市健康対策課	6人

【新規登録】 協会員 3人 (全5回講座を受講終了者のみ登録)

※協会員および相互会員の登録は協会員養成講座の全受講が要件となっているため、未受講の講座内容については、次回の養成講座やステップアップ講座の受講で対応することとする。

ウ ステップアップ講座

【会場】 大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる

回	日程	講座内容	講師	受講者数
1	10月29日	子どもが手にするスマホやゲームに潜む危険 ～子どもの心と体と脳を守るために 知っておきたいこと～	NPO 法人 子どもとメディア 横地 景子さん	10人
2	3月10日	子どもと楽しく作るおやつ	江崎 裕子さん	6人
3	3月20日	子どもとのコミュニケーションを深めよう ～子どもの心が育つ聴き方・話し方～	コミュニケーション・ ラウンジ YANO 代表 矢野 隆子さん	10人

エ 安全対策講習会

【日程】 10月25日 (土)

【会場】 大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる

【テーマ】 子どもに起こりやすいケガや病気の手当の仕方を学ぼう
～いざ!という時、あわてないために～

【講師】 日本赤十字福岡県支部 坂本峰子さん

【受講者】 16人

(9) 放課後児童健全育成事業(市受託事業)

① 学童保育所・クラブの運営(三池・高取・中友・白川・大牟田・平原)

放課後児童対策として、昼間、児童(概ね小学校1～3年生)の養育ができない家庭などの児童に対し、適切な遊びと生活の場を提供するとともに、各学童保育所においては、地域組織等と連携し、様々な世代間交流事業を実施した。

(入所児童数：平成27年3月31日現在)

学童保育所名	三池	高取	中友	白川	大牟田	平原	計
児童数(人)	38	22	24	37	42	21	184

② 6学童交流行事

大牟田市社会福祉協議会が運営する6つの学童保育所・クラブの交流行事として実施。6学童の親子混合チームを作り、8つのポイントをクイズやゲームを楽しみながら回る姿が見られた。つどいの目的である他学童児・保護者間の交流・親子のふれあいを深めることに繋がった。

■ 「学童っ子のつどい」の開催

【日時】 平成26年11月8日(土)

【会場】 諏訪公園 イベント広場

【内容】 スタンプラリー

【参加者】 約220名

③ 大牟田市学童保育所等未整備校区における児童送迎事業

学童保育所が整備されていない上官小学校の児童(1、2年生)を対象に、上官小学校・中友学童保育所間の送迎を延べ268日実施した。

(10) くぬぎ保育所運営事業

「みんなが笑顔になれる保育所」を合言葉に、保育のさらなる充実に向けて日々努力を積み重ねる中、今年度は入所園児数94名(定員90名)でスタートし、年度末には最高106名の園児が在籍した。

今年から完全給食を実施し、安全な食材でバランスの良い食事を提供すると共に食に対する関心を育てた。また、未就園児を対象とした園庭開放「どんぐりクラブ」では、体験保育や給食試食を通して園児との交流を図り、保護者から育児相談を受けることで、職員との信頼関係を構築した。

【各月の児童数】

(単位：人)

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	合計
6月	3	11	16	20	23	21	94
9月	4	13	16	20	23	20	96
12月	4	15	18	20	24	20	101
3月	7	15	20	20	24	20	106

【主な行事内容】

4月 1日	入園式・進級式	10月 11日	運動会
4月 18日	3・4・5才児遠足	10月 18日	幼年消防大会
6月 13日	プール開き	10月 20日	稲刈り
6月 26日	田植え体験	12月 5日	世代間交流餅つき
7月 5日	親子で味噌づくり体験	12月 20日	クリスマス会
7月 12～13日	年長お泊り保育	2月 3日	節分、豆まき
7月 26日	お祭りごっこ、ちびっこ総踊り	3月 13日	お別れ遠足
8月 30日	親子ふれあいバザー	3月 21日	卒園式

※ふれあい処「えいる」との交流

※グループホームいろは、米の山デイサービス訪問

※学童保育所との交流

※園庭開放 「どんぐりクラブ」 10回開催

【どんぐりクラブ（園庭開放）参加者数】

	参加者数	内容		参加者数	内容
5月	20名（9組）	リズム遊び	11月	25名（11組）	外遊び（お散歩）
6月	15名（6組）	どろんこ遊び	12月	16名（7組）	もちつき
7月	15名（6組）	たなばた祭り	1月	15名（6組）	お正月遊び
8月	14名（5組）	プール遊び	2月	20名（9組）	リズム遊び
9月	20名（8組）	お絵かきとリズム遊び	3月	23名（10組）	おひな祭り

(11) おおむたキャロットサービス(住民参加型在宅福祉サービス)

① おおむたキャロットサービスの充実

日常生活において、公的サービスでは対応できない生活課題を抱えている一人暮らし高齢者等に対し、サポーター登録した協力会員が生活支援サービスを行った。

(会員数)

	24年度	25年度	26年度
利用会員	87人	142人	128人
協力会員	36人	43人	51人
合計	123人	185人	179人

(活動数)

24年度	前年比 (%)	25年度	前年比 (%)	26年度	前年比 (%)
1,448件	228.4%	1,709件	118%	1,741件	101.9%

(活動内容状況：1,741件)

	家事支援		買い物	薬とり	通院・外出の付添い	見守り	話し相手	草取り	ゴミ出し	その他		
	掃除・洗濯	食事作り								修繕など	その他	産前産後
4月	107	2	3	2	8	2	3	14	0	3	0	0
5月	58	7	3	0	2	0	1	17	1	0	5	0
6月	134	2	5	0	9	0	0	8	0	2	4	0
7月	74	3	6	1	5	0	2	13	0	2	3	0
8月	119	7	5	2	4	0	0	4	0	1	7	0
9月	112	4	6	0	4	0	0	9	0	0	8	0
10月	73	4	2	0	6	0	0	2	0	0	5	0
11月	110	3	1	2	13	0	4	4	0	1	3	0
12月	214	4	7	5	16	0	22	6	0	1	12	0
1月	140	16	24	0	15	1	4	2	0	0	3	0
2月	40	18	6	0	6	0	1	1	0	1	5	0
3月	119	0	5	1	1	0	0	4	0	0	5	0
合計	1300	70	73	13	89	3	37	84	1	11	60	0

②おむたキャロットサービス協力会員交流会の実施

活動上の情報交換を通して協力会員同士の親睦・連携を深め、活動の充実を図る目的で実施。

1回目：【日 時】 平成26年6月24日（火）

【参加者】 23名

2回目：【日 時】 平成26年10月21日（火）

【参加者】 13名

③「おむたキャロットサービス協力会員養成講座」の実施

キャロットサービスへの依頼増加に対応するために協力会員の養成を行った。

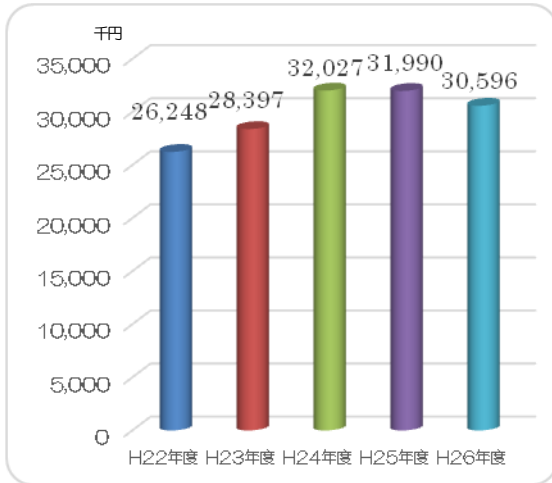
	日時	内容	講師	受講者数
1	10/24（金）13:30～15:30	住民参加型福祉サービスについて	NPO法人地域たすけあいの会 田中 将太さん	19
2	10/31（金）10:00～12:00	大牟田の現状・介護保険制度・障害福祉について	長寿社会推進課（塚本主査） 福祉課（徳永さん）	14
3	11/7（金）13:30～15:30	ボランティアの意味・意義 （登録ボランティアの研修と兼ねる）	NPO法人ドネルモ 宮田 智史さん	27
4	11/14（金）10:00～12:00	キャロットサービスについて （実践発表）	協力会員 SL（飯島・梅田氏）、社協	16

(12)高齢者福祉対策の推進

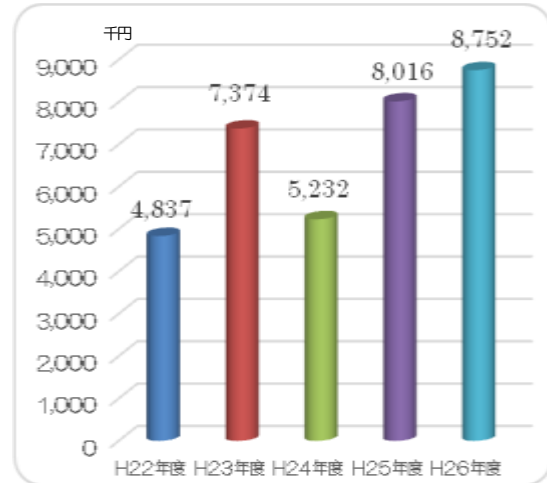
①介護保険事業の充実

訪問介護（ホームヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）、居宅介護（ケアプランの作成）、通所介護（デイサービス）の事業を実施し、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。

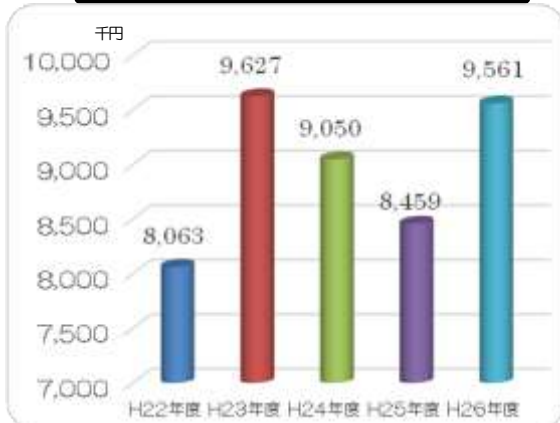
訪問介護事業（ホームヘルプ）実績



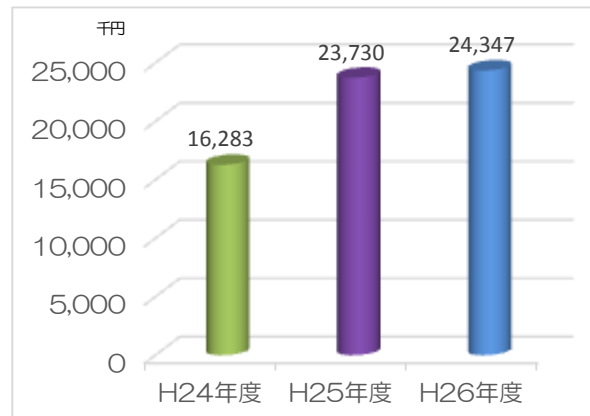
訪問入浴事業（入浴サービス）実績



居宅介護支援事業（ケアプラン）実績



通所介護事業（ふれあいぬいぐるみ）実績



【平成26年度介護保険事業の総括】

- 訪問介護事業では前年度実績より、事業件数については438件減になった。収入面では1,393千円減となった。これは利用者様の要介護度が高くなり在宅生活が難しくなり、施設入所や入院になったことが大きな要因となった。
- 訪問入浴事業では前年度実績より736千円増となり、事業件数も65件増となった。これは関係機関（病院）への啓発活動が大きな要因となった。
- 居宅介護支援事業では前年度実績より1,102千円増、事業件数3件減となった。これは認知症・独居加算を確実に算定できた為である。
- 通所介護（えいる）事業では、前年度実績より617千円増となり、延利用件数も345件増となった。
※5事業合計として、前年度実績と比較すると1,730千円収入増という結果となった。

(各年度事業実績)

事業名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
訪問介護サービス	収入 (円)	26,248,165	28,396,728	32,027,405	31,990,254	30,596,792
	件数 (件)	7,411	8,239	9,683	9,713	9,275
訪問入浴サービス	収入 (円)	4,837,532	7,374,639	5,232,207	8,016,180	8,752,500
	件数 (件)	374	549	411	624	689
居宅介護支援事業	収入 (円)	8,063,700	9,627,140	9,050,200	8,459,620	9,561,730
	件数 (件)	652	810	847	792	789
通所介護（えいる）	収入 (円)	—	377,423	16,283,080	23,730,030	24,347,220
	件数 (件)	—	36	1,763	2,541	2,886
通所介護（築町えいる）	収入 (円)	—	—	—	—	668,485
	件数 (件)	—	—	—	—	98
総合計	収入 (円)	39,149,397	45,775,930	62,592,892	72,196,084	73,926,727
	件数 (件)	8,437	9,634	12,704	13,670	13,737

【まちの縁側築町えいる事業報告】

築町商店街の空き店舗を活用し、大牟田市から大牟田市まちづくり基金事業の補助金を活用し、小規模デイサービスセンターとオープンサロンを併設した「まちの縁側築町えいる」を平成26年12月16日に開所した。オープンサロンでは「健康運動教室」や「折り紙教室」などの活動を実施し、延べ21名の方が参加された。また、多くの地域の方にバス待ちや、買い物の休憩などとして活用されている。また、商店街が実施している「十日市」には毎月参加をし、利用者が製作した小物などを販売することによりリハビリ意欲の向上などにつなげている。

(オープンサロン利用者統計)

12月	1月	2月	3月	計
27人	61人	104人	87人	279人

※バス待ちやちょっとした立ち寄り、サロン活動への参加など何らかの形でまちの縁側築町えいるに來所された延べ人数

(デイサービス利用者統計)

12月	1月	2月	3月	計
14人	19人	28人	37人	98人

②介護予防・相談センターの運営(市受託事業)

中央地区地域包括支援センターのサブセンターとして、主に平原・上官校区を担当し介護認定により要支援と認定された高齢者及び二次予防事業所対象の高齢者(特定高齢者)に対して、介護予防プラン等の作成や訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関、サービス実施事業者と連携して実施した。

また、介護予防の普及・啓発を目的とした介護予防啓発教室や健康相談の場を設け、地域住民の健康増進に努めた。

(各年度事業実績)

事業名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
介護予防・ 相談センター	収入(円)	3,442,720	3,779,360	4,853,480	5,982,120	6,485,110
	件数(件)	660	762	704	956	1,092

③日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分なため、日常生活に困っている人たちに対して生活支援員を派遣し、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等を行った。また、生活支援員のスキルアップと活動意欲の向上を目的にフォローアップ研修を実施した。

ア 第1回生活支援員研修会

【開催日】平成26年6月24日(火)

【会場】総合福祉センター中会議室

【内容】生活支援員の役割

【参加者】13名

イ 第2回生活支援員研修会

【開催日】平成27年2月23日(月)

【会場】総合福祉センター中会議室

【内容】虐待について(講師)大牟田市長寿者社会推進課 稲吉 江美氏

【参加者】10名

ウ 平成26年度日常生活自立支援事業実施状況 ※平成27年3月31日現在

【相談件数】46件 【延べ利用件数】732件

【利用者数】49名 【生活支援員】21名

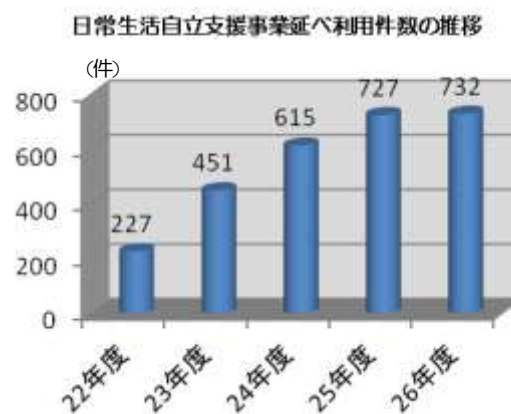
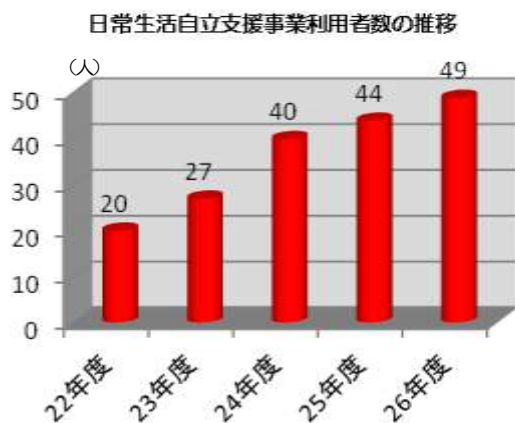
(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談受付	7	2	2	6	3	4	2	3	1	4	4	8	46
利用件数	65	57	59	59	58	60	63	56	68	63	64	60	732

(過去5年間の利用状況)

(単位:件)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
利用者数(人)	20	27	40	44	49
利用件数(件)	227	451	615	727	732



④「在宅介護者の会」活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする「在宅介護者の会」の事務局を担い、様々な活動支援を行った。

■大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」…会員数14名

【目的】在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、仲間づくりを行うとともに「介護」にかかる課題を解決していくことを目的に実施。

【定例会】毎月第4水曜日に実施。

※介護体験を語るおしゃべり会を中心に、学習会、カラオケ大会などを実施。また、年2回、日帰り温泉旅行などリフレッシュ事業にも取り組んだ。

⑤車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障がい(児)者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るため、延べ90人に無料で車椅子を貸し出した。

(貸出実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	6	16	5	7	10	8	8	11	3	3	6	7	90

(13)おもちゃの図書館“くるりん”の支援

障がいのある子どもも、ない子どもも共に遊び交流し、育ちあう場として開催。また、障がいのある子どもの親同士の交流の場となっている。

【開催日時】毎月第3日曜日 10:00~12:00

(14) 自閉症1DAY イベントの実施

世界自閉症啓発デーに伴う周知啓発活動として、自閉症児等の発達障がいに対する理解と関心を深めてもらうことを目的に、自閉症児親の会と協働して実施。

【日 時】平成27年3月26日（木）

【会 場】大牟田市総合福祉センター

【内 容】DVD 上映、本展示コーナー、人形劇、おうちの人の話等

【参加者】30人

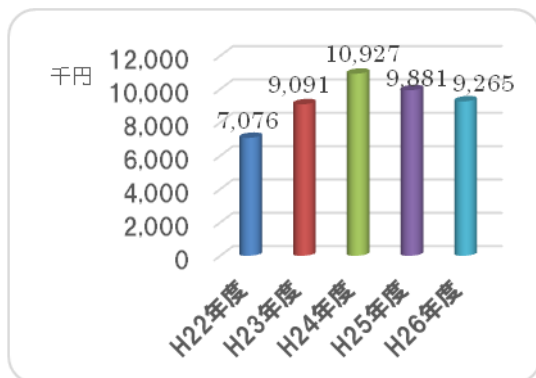
※自閉症(発達障がい)についての啓発資料展示及び作品展示は、平成27年3月26日（木）～4月8日（水）に実施。

(15) 障がい児・者福祉対策の推進

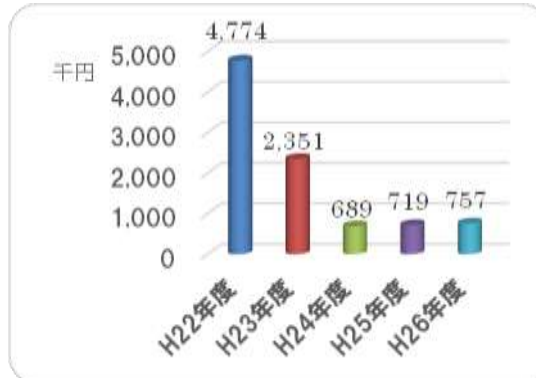
① 障害者自立支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス（ホームヘルパー派遣）、移動支援（ガイドヘルパー派遣）、訪問入浴（入浴車による訪問入浴）の3事業を実施し、在宅生活を支援した。

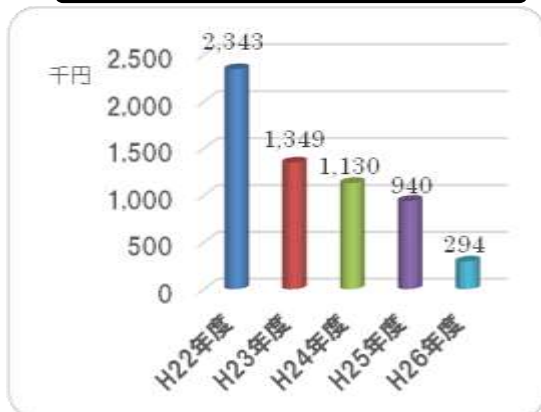
障害者居宅サービス事業（ホームヘルプ）実績



障害者移動支援事業（ガイドヘルプ）実績



障害者訪問入浴サービス事業実績



【平成26年度障害者自立支援サービス事業の総括】

- 居宅サービス事業では前年度実績より616千円減、事業件数については、130件の減となった。これは、利用者が65歳になったため、介護保険に移行したことなどが要因である。
 - 移動支援事業では前年度実績より38千円の増。
 - 訪問入浴サービス事業では前年度実績より646千円減、事業件数も68件減となった。これは利用者様の体調不良により入院期間が長期になったことが大きな要因。
- ※3事業合計として、前年度実績と比較すると、1,224千円収入減という結果となった。

(各年度事業実績)

事業名		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
障害者居宅サービス事業	収入 (円)	7,076,318	9,091,037	10,927,730	9,881,849	9,265,680
	件数 (件)	2,092	2,493	2,726	2,468	2,338
障害者移動支援事業	収入 (円)	4,774,662	2,351,593	689,370	719,234	757,160
	件数 (件)	1,261	687	355	368	385
障害者入浴サービス事業	収入 (円)	2,343,650	1,349,000	1,130,500	940,500	294,500
	件数 (件)	262	142	119	99	31
総合計	収入 (円)	14,194,630	12,791,630	12,747,600	11,541,583	10,317,340
	件数 (件)	3,615	3,322	3,200	2,935	2,754

②知的障がい児・者医療支援プロジェクト

平成26年度は、共同募金配分金を受けて「知的障がい児・者の歯科医療を考える講演会」（歯科医師会等後援）や、「知的障がい児・者の予防医療を考えるセミナー」（医師会等後援）を開催するとともに、医療支援手帳の作成や医療用絵カード等のアイテムについての研究に取り組んだ。

加えて、医師会や歯科医師会、教育委員会に対して、プロジェクト活動をもっと詳しく知ってもらうために、様々な場面において、関係づくりに努めてきた。このことにより、平成26年12月より大牟田医師会から、本プロジェクトメンバーとして参加いただくようになった。また、教育委員会とも、定期的な懇談の場を提供いただいている。

さらに、平成26年度は、第3次大牟田市障害計画策定の年であり、プロジェクトとしても、知的障がい児・者医療環境の整備に訴えてきたところである。

(16)総合相談事業の推進

①福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合「第三者委員会」でその解決を図るため設置しているが、平成26年度は相談依頼がなく、開催していない。

②行政書士による法務相談

毎月第3水曜日に行行政書士による法務相談を実施し、家庭、離婚、金銭貸借、財産相続、事故などの相談に親身になって対応し、高度な対処法について無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。平成26年度相談実績は、54件。

(相談件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	9	3	3	6	7	4	8	4	3	5	2	0	54

③生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、修学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、民生委員の協力のもと、借受世帯の自立に向けた指導、支援を行った。

平成26年度実績は、相談件数331件、貸付決定件数16件、償還猶予申請1件。

(相談・貸付決定件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談受付	36	15	21	34	21	24	30	18	27	30	38	37	331
貸付決定	3	0	0	0	3	0	0	1	2	3	4	0	16

(生活福祉資金貸付状況)

(単位：千円)

	24年度		25年度		26年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活支援費	0	0	1	210	0	0
住宅入居費	0	0	0	0	0	0
一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
福祉費	3	1,820	4	367	3	732
緊急小口	9	800	8	737	5	450
教育支援費	4	5,178	6	3,364	3	2,520
就学支度費	3	1,293	8	4,359	5	3,373
その他	0	0	0	0	0	0
合計	19	9,091	27	9,037	16	7,075

④住宅手当緊急特別措置事業(市受託事業)

住宅手当緊急特別措置事業は、離職者であって就労能力・就労意欲のある人の中で、住宅を喪失しているか、喪失するおそれのある人に対して住宅手当を支給することにより、これらの人に住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行うことを目的としている。

この事業を実施するに当たっては、市保護課やハローワークと連携し、「生活保護受給者等就労自立促進事業」を活用した就労支援や、必要に応じて本会が窓口である生活福祉資金貸付事業を併用しながら、当事者の支援にあたった。

(相談件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談受付	17	2	2	15	6	2	0	0	1	2	0	0	47

【相談件数】 47件
(面接相談 35件 電話相談 12件)
【申請件数】 8件
【支給決定件数】 8件
【就職決定者数】 7件

(17)生活困窮者支援事業の調査研究

①生活困窮者支援及び他職種との連携に関する調査研究

(厚労省・社会福祉推進事業補助)

現在、生活福祉資金貸付事業や住宅支援給付事業を実施しているが、平成27年度より施行される生活困窮者自立支援法の制度の普及と生活・福祉課題のニーズ把握、また支援システムの検討を目的に、厚生労働省社会福祉推進事業「市町村社協における生活困窮者支援及び他職種との連携に関する調査研究」を実施。全国の市町村社協へのアンケート調査及び先進地区社協へのインタビュー調査を行った。

②生活困窮者支援における社協活動研修会(厚労省・社会福祉推進事業補助)

全国の市町村社協へのアンケート調査及びインタビュー調査結果に伴い、九州の社協職員を対象に調査結果報告及び先進市社協の生活困窮者支援モデルの事例発表等について研修会を開催した。

【開催日】 平成26年10月23日(木)

【会場】 オオムタガーデンホテル

【研修内容】 生活困窮者支援における他職種との連携についての調査研究報告及びモデル事例発表

【参加者】 約90名

※成果物名称:「市町村社協における生活困窮者支援及び他職種との連携についての調査研究」全94ページ

③生活困窮者自立支援制度に係るアンケート調査等業務(市受託事業)

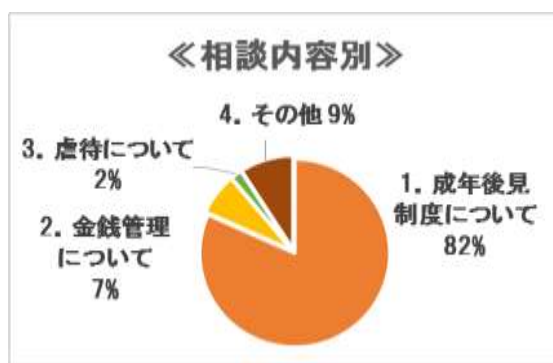
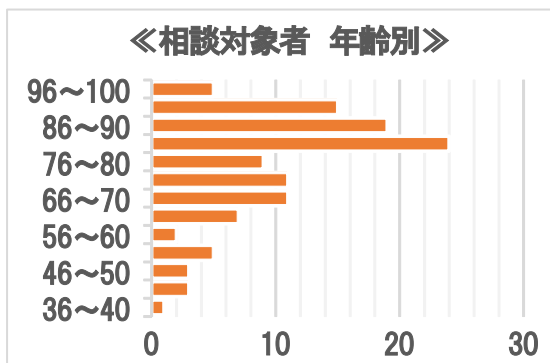
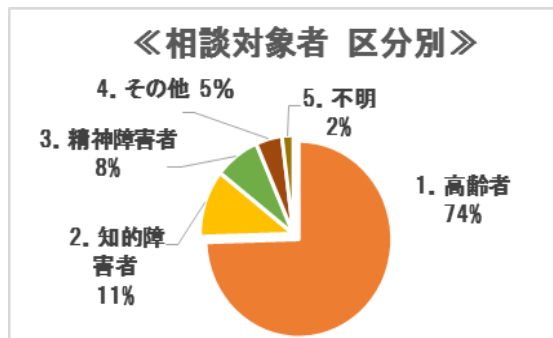
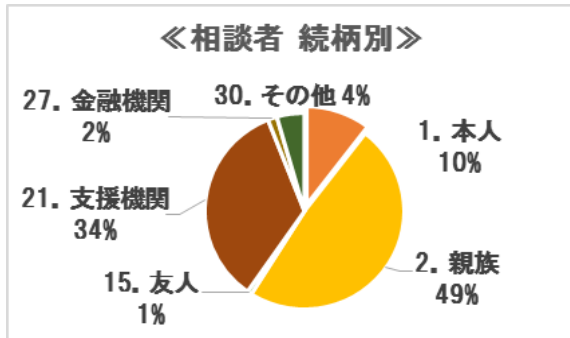
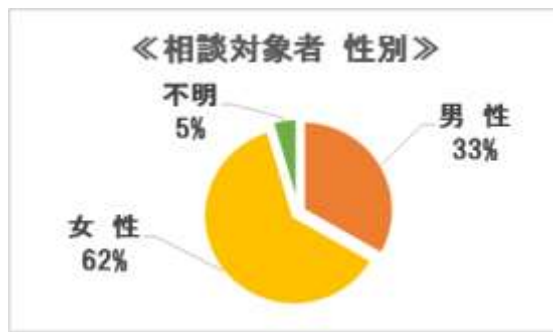
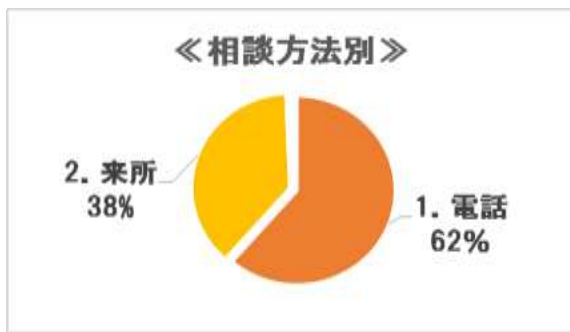
市内の生活困窮者の実態把握と支援方法を検討するため、大牟田市より「生活困窮者自立支援制度に係るアンケート調査等業務」の委託を受け、市内の民生委員・児童委員の協力のもと「大牟田市内における生活困窮者の実態及び必要とされるサービス・資源について」のアンケート調査を実施した。それに加え、ハローワーク、保育所、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所等を対象にしたインタビュー調査の結果を踏まえ、生活困窮者本人の状況に応じた制度内外の支援が提供できるような「大牟田版生活困窮者自立支援スキーム」を作成した。

※成果物名称:「生活困窮者自立支援制度に係るアンケート調査等業務報告書」 全39ページ

(18)大牟田市成年後見センター運営事業(市受託事業)

①成年後見等に関する相談

大牟田市成年後見センター(以下、後見センター)を設置した平成26年4月1日から平成27年3月31日の初回相談者数は153件(実人数)となった。相談対象者、相談者、相談内容別の傾向として次のとおりとなった。



また、初回相談数のうち、初回のみを終結件数 84 件、継続支援件数 69 件となった。
継続支援の延べ回数は 320 回であった。

②市民後見人の養成・登録

今年度、市民後見人の養成・登録の実施にあたって開催した講座等は以下のとおり開催した。

[成年後見活用講座]

- 【目的】より多くの方が成年後見制度を学び、活用できるようになることで、地域社会における権利擁護の推進を図る。
- 【日程】平成27年2月3日～平成27年3月3日 毎週火曜日〔全5回〕
- 【参加者】受講者23名、修了者20名

[市民後見人実務養成講座]

- 【目的】地域社会における権利擁護の推進を図るために、市民後見人登録申請および活動を前提とした人材を養成する。
- 【日程】平成26年11月4日～平成27年1月20日毎週火曜日〔全10回〕
- 【参加者】受講者7名、修了者6名

[市民後見人実務者講座]

- 【目的】市民後見人登録者の資質の向上と次年度の登録更新における必須の更新研修として開催する。
- 【日程】平成26年12月17日(水)
- 【参加者】7名

[市民後見人の選考・登録]

【目的】当法人で受任している被後見人等への支援者として活動する市民後見人登録者を選考・登録する。

【日程】4月30日(水) 市民後見人登録申請 締切[申請者：8名]
5月15日(木) 平成26年度 市民後見人選考会[参加者：8名]
7月31日(木) 市民後見人登録手続き 締切[登録者：8名]

③市民後見人活用による法人後見受任及び市民後見人活動の支援

平成26年度末時点において、当法人が後見人等として受任し、市民後見人が活動した件数は以下のとおりとなった。

【法人後見受任件数】8件 ※(内訳)後見6件、保佐1件、補助1件

【市民後見人活動者数】5件

④成年後見制度や権利擁護に関する啓発

- 地域組織及び福祉団体等における出前講座対応：12件
- 介護事業所及び地域包括支援センター等への講座：17件
- 他都市視察対応及び福岡県での講演：7件
- 成年後見啓発フォーラム

【開催日】平成26年11月23日(日)

【会場】イオンモール大牟田2階 イオンホール

【内容】「知って安心!あなたの暮らし～医療・介護・遺言・後見のしくみ～」

【参加者】77名

(19) 社協広報の充実

①広報紙「社協だより「きらり」」の発行

年4回(4月・7月・10月・1月)、全世帯を対象に発行している社協福祉情報「きらり」を発行した。

②社協事務局通信「きらり」の発行

毎月1回、社協事務局通信「きらり」を発行し、タイムリーな情報を提供した。

③社協ホームページ(<http://www.omshakyo-kizuna.com/>)

くぬぎ保育所ホームページ(<http://www.omshakyo-kizuna.com/kunugi/>)

社協及びくぬぎ保育所のホームページを全面的にリニューアルし、社協の取り組みや事業内容の紹介等、随時情報を提供した。

また、居住支援協議会、共同募金会、ホスピタルローソン大牟田市立病院店の活動について、フェイスブックで情報を発信した。

(20) ボランティアセンター充実強化

①ボランティア情報提供と啓発

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結ぶために、登録団体名簿・ボランティアニーズ情報紙を用い、ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めた。

(ボランティアセンター登録状況)

	24年度	前年比 (%)	25年度	前年比 (%)	26年度	前年比 (%)
グループ(団体)	51	145.7	61	119.6	54	88.5
個人(人)	29	181.3	24	82.8	13	54.2

②ボランティア活動保険加入について

ボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

(ボランティア活動保険加入状況)

	24年度	前年比 (%)	25年度	前年比 (%)	26年度	前年比 (%)
保険加入者数	1,289	44.3	1,018	79.0	1,063	104.4

③登録ボランティアスキルアップ研修

【日 時】 平成26年11月7日 (金)

【会 場】 大牟田市総合福祉センター

【内 容】 テーマ：ボランティアの意味・意義

講 師：NPO 法人ドネルモ 宮田 智史さん

④タブレットDE楽しみ隊“タブレット”活動状況

タブレットを活用したサロン等サポーター養成事業「タブレット DE 地域デビュー講座～人生に彩りを～」(24年度実施)の修了生によって後に立ちあがったボランティア団体「タブレットDE楽しみ隊(愛称：タブレット)」の地域での活動が広がった。

【訪問回数】 28回

【参加者】 466人

⑤“災害”に対する取り組み

大牟田市ボランティア連絡協議会、大牟田市障害者協議会、大牟田市校区社会福祉協議会会長連絡協議会、大牟田市と実行委員会を組織し、“災害”への取り組みを行った。

ア 災害ボランティアセンター設置・運営訓練

災害発生時のボランティア活動を効率よく効果的に支援するために、大牟田市総合防災訓練の一環として、職員を中心に「災害ボランティアセンター設置・運営訓練」を実施した。

【日 時】 平成26年8月31日 (日)

【会 場】 大牟田市立銀水小学校

【参加者】 86人

【内 容】 銀水小学校でサテライト型の災害ボランティアセンターを設置。

ボランティア内容として、市より依頼された避難所運営のサポートにボランティアを送り出すまでの流れを確認した。

イ 第2回防災運動会の実施

【日 時】 平成27年2月21日 (土)

【会 場】 大牟田市立大正小学校

【参加者】 約230人

【内 容】 大正校区住民を中心に、子どもから高齢者、障がい者が一緒になって防災に関連する競技をおこなった。また、その中で、災害に関する展示体験コーナーや講話も実施した。

㊦非常食準備競争 ㊧搬送りレー ㊨大声競争 ㊩バケツリレー

(21)第6回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～

市民一人ひとりが自ら住んでいる地域に積極的に関わり、地域住民の「支えあいの“絆”」を創造に寄与することを目的に開催した。また、地域福祉の向上に貢献され、他の模範となる個人又は団体に対する表彰状の授与を行うことで活動者の行いを公に明らかにするとともにその功績を称えた。併せて、本年度は「赤い羽根共同募金」及び「歳末たすけあい募金」に、多額の寄付をされた方々へ感謝状を贈呈し、表彰した。

【日 時】 平成27年2月7日 (土)

【場 所】 大牟田文化会館 小ホール

- 【主催】 大牟田市地域福祉大会実行委員会
 【参加者】 約400名
 【内容】 [第1部]大牟田市社会福祉協議会 功労者表彰
 (表彰の部)

■校区社協実践活動者・団体 (31名)

■優良校区社協 (1校区)

■ボランティア活動団体 (2団体)

(感謝の部)

■校区社協実践活動者・団体 (22名)

■ボランティア活動団体 (2団体)

■善意銀行高額寄付者・団体 (3団体・7名)

(共同募金高額寄付者・団体表彰)

■共同募金高額寄付者・団体 (11団体)

[第2部]基調講演「地域の課題を見つめて ～今、地域に求められているもの」

(講師) 松本大学地域づくり考房『ゆめ』 専任講師 福島 明美さん

(22)福祉教育の推進

小・中学校を対象として、福祉教育を推進し社会福祉への理解と関心を高めるとともに、ボランティア活動と地域福祉活動への参加促進を図った。

①福祉教育教材貸出状況

福祉教育に用いてもらうため、小・中学校や高校、事業所に高齢者疑似体験セット・車椅子・アイマスク・白杖・ビデオ等を貸し出した。

区分	ビデオ・DVD(本)	疑似体験(セット)	白杖(本)	アイマスク(枚)	車椅子(台)
小学校	8	24	0	0	33
中学校	4	24	24	48	31
高等学校	0	0	0	0	0
その他	1	7	0	0	4
合計	13	55	24	48	68

②講師派遣状況

児童・生徒の福祉教育の推進を目的とし、視覚・聴覚障がい者の人などを講師(ゲストティーチャー)として派遣。また点字指導には点訳奉仕大牟田むつき会の協力を得た。

	24年度	前年比(%)	25年度	前年比(%)	26年度	前年比(%)
派遣件数	25	73.5	19	76.0	24	126.3

③「社協ふくし林間学校」実施

子どもたちが将来の地域福祉の担い手となり、高齢者を支える存在となるよう、福祉教育の一環として、“高齢者を知る”ことを学んだ。

【日時】 平成26年8月19日(火)

【会場】 わいわい広場

【参加者】 小学生：21人

【内容】 1限目：認知症絵本教室 講師：市長寿社会推進課 梅本 政隆さん

2限目：ピザ作り・昼食 講師：おおむた・わいわいまちづくりネットワーク

3限目：“助け合い”について考えよう(東日本大震災復興支援)

講師：彌永 恵理さん

4限目：散策しながら下山

(23) 居住支援協議会活動支援事業（国交省：住宅セーフティネット基盤強化推進事業補助）

地域資源としての空き家の活用と住宅確保要配慮者の円滑な入居促進及び安心して暮らせる仕組みづくりを推進するため、事務局として不動産・福祉・医療・行政等の各団体と協力し事業を行った。地域資源としての空き家の活用と住宅確保要配慮者の円滑な入居促進及び安心して暮らせる仕組みづくりを推進するため、事務局として不動産・福祉・医療・行政等の各団体と連携して取り組んだ。

① 高齢者住まいシンポジウム in おおむたの開催

『みらい都市・大牟田から 2025 年モデルを発信する～住宅と福祉の連携による地域包括ケアの推進を目指して～』をテーマに、大牟田市がこれまで住宅と福祉の連携により行ってきた取り組みや国が進める最新の施策情報等を紹介することで、地域包括ケアのあり方や 10 年後のまちづくりの姿を市民や関係団体等に発信し共有するものとして開催。

【開催日】平成 26 年 10 月 24 日（金）

【会 場】大牟田文化会館 大ホール

【参加者】約 500 名

② 情報検索システム「住まいナビ「住みよかネット」」の構築

平成 25 年度事業において実施した空き家調査データを活用するため、検索システムの構築及び検証を行った。

③ 空き家活用無料相談会の開催（年 2 回）

【開催日】平成 26 年 7 月 24 日（木） 相談件数 14 件

平成 27 年 2 月 8 日（日） 相談件数 11 件

【会 場】総合福祉センター 大会議室

④ 「地域医療・介護と空き家活用の可能性検討ワークショップ」の開催

医療・介護・福祉の専門家と教育機関が連携して、空き家を活用した、地域とつながった暮らしを考えるワークショップを開催。

【開催日】平成 27 年 2 月 22 日（日）

【会 場】大牟田市労働福祉会館 中ホール

【参加者】60 名

⑤ 空き家を活用した地域交流サロンの改修及び開所

平成 26 年 2 月に空き家の提供を受け、7 月から建築士の指導の下、有明工業高等専門学校（建築学科）と協働で改修を実施。利用方法について協議を重ね、平成 27 年 1 月 24 日（土）、地域の交流サロン（サロン田崎）として開所。

(24) 第 3 次大牟田市地域福祉実践計画の策定

大牟田市地域福祉実践計画（以下、実践計画）は、地域住民やボランティア、福祉や介護事業者などの民間団体が相互に協力して、地域福祉を推進していくことを目的とする民間の活動・行動計画であり、社会福祉法第 109 条の規定で地域福祉の推進役として位置づけられた社会福祉協議会が中心となって作成したところである。

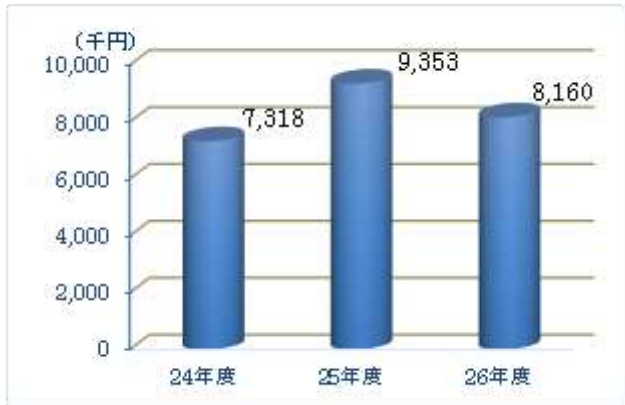
平成 26 年度は、平成 27 年度～31 年度の 5 ヶ年計画である第 3 次実践計画の策定年度となっており、前回（第 2 次実践計画）の策定では、大牟田市が策定する大牟田市地域福祉計画と基本理念を共有し、整合性を保ちながら、計画策定までの工程で、市民アンケート調査や市民ワークショップなどを共同作業で行ってきた。

第 3 次計画も同様の作業手順を踏んで、「2025 年問題」を念頭に置き、地域包括ケアシステムの実現を目指すとともに、新たに生活困窮者支援対策を盛り込んでいる。

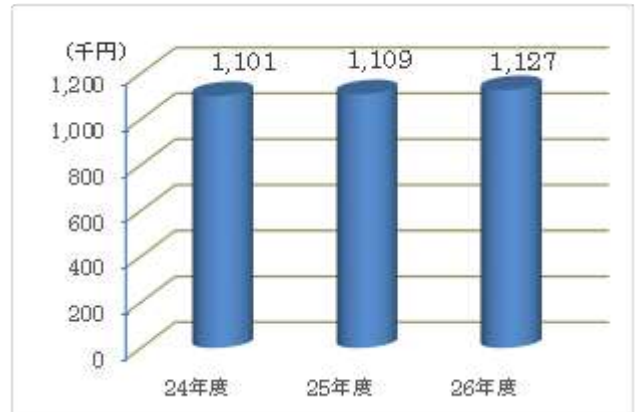


(25) 大牟田善意銀行の啓発強化

一般寄付金の3カ年の推移



賛助会員会費の3カ年の推移



(寄付金等預託状況)

		24年度	前年比(%)	25年度	前年比(%)	26年度	前年比(%)
一般寄付金	件数(件)	408	88.3	373	91.4	412	110.5
	金額(円)	7,317,789	81.2	9,352,547	127.8	8,159,748	87.2
物品寄贈件数		21	100.0	19	90.5	18	94.7

(賛助会員数等の推移)

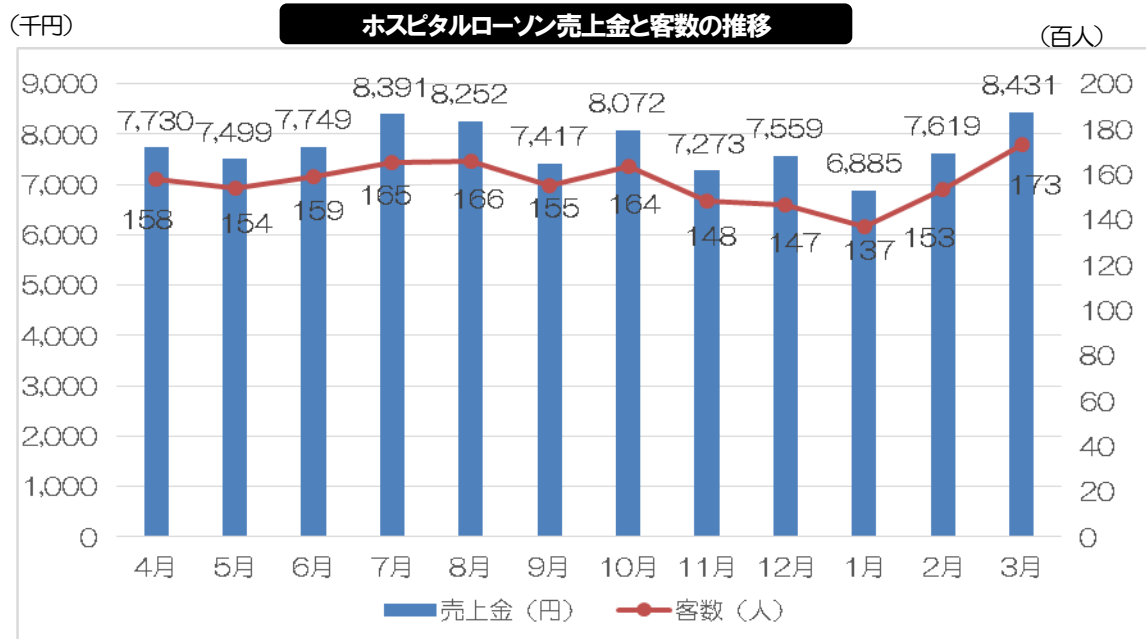
		24年度	前年比(%)	25年度	前年比(%)	26年度	前年比(%)
会員数 (個人・団体)		403	94.6	405	100.5	420	103.7
金額(円)		1,101,000	101.8	1,109,000	100.7	1,127,100	101.6

(26) 市立病院ほっとスペースの運営

大牟田市立病院2階にて運営するコンビニ機能と食事処の機能をあわせもつ、くつろぎ空間ほっとスペースが、開設より2年目を迎えた。

①市立病院ホスピタルローソン

お弁当やおにぎりなどの定番商品の他、入院生活に必要な日用品、挽きたて淹れ立てのコーヒーを提供するマチカフェなど豊富な品揃えで、固定客の獲得に努めた。その他、恵方巻きやクリスマスケーキ等の季節商品などの店舗外営業にも力をいれた。



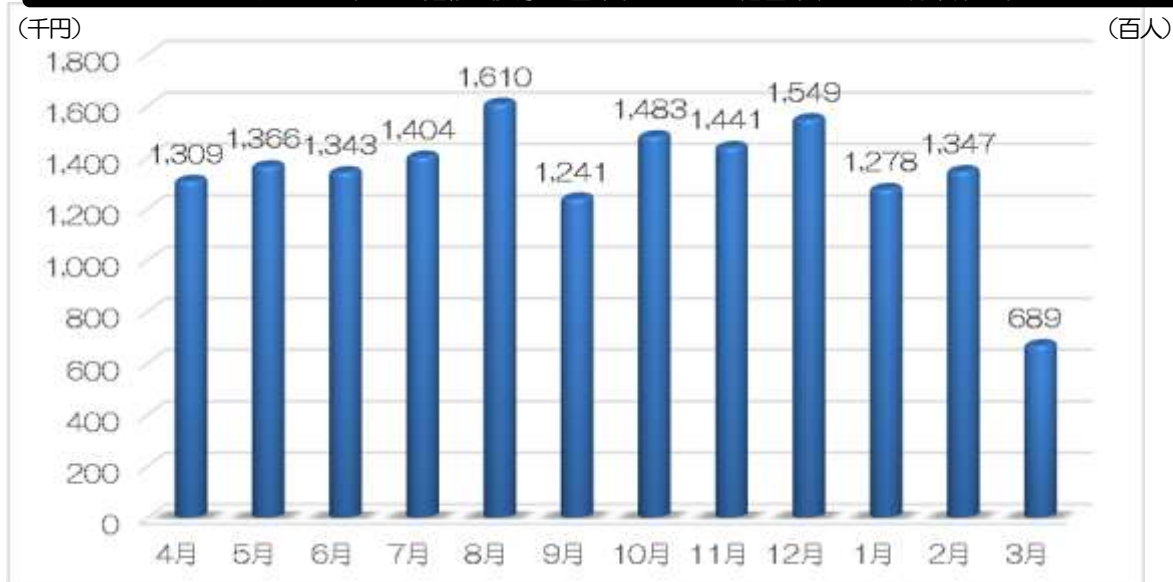
(営業実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
売上金 (円)	7,730,382	7,499,025	7,749,161	8,390,565	8,252,279	7,416,905	
客数 (人)	15,794	15,414	15,875	16,529	16,583	15,527	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上金 (円)	8,071,686	7,272,892	7,558,690	6,884,691	7,619,201	8,431,052	92,876,529
客数 (人)	16,374	14,846	14,668	13,683	15,324	17,300	187,917

②食事処ほっとりピング

平成25年1月、大牟田市立病院ほっとりピング事業として開始以来、食の安全第一をモットーに、家庭料理の手作り感を大切にした「日替りランチ」と「日替わり具だくさんスープ」の他、モーニングセット等を提供。しかしながら、2年を経過し、病院内レストラン故に食数が限られていることや院外からの来客が見込めないことから厳しい経営状況にあった。加えて、レストラン厨房のスペースの問題やスタッフ確保の困難さなどの事由により、今後もその改善が大きく見込めないことから、市立病院及び理事会、評議員会の了承を得て、平成27年3月末をもってほっとりピング事業を廃止した。

ほっとりピング収入の推移 (食事処営業収入・その他営業収入・手数料収入)



(営業実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
食事処ほっとリビング 営業収入(円)	843,500	798,900	866,500	923,900	848,000	796,400	
その他営業収入(円) (ゴミ袋・切手等)	223,373	355,468	266,066	270,843	499,171	230,927	
手数料収入(円) (自動販売機等)	242,624	212,017	210,754	208,847	262,637	214,158	
合計(円)	1,309,497	1,366,385	1,343,320	1,403,590	1,609,808	1,241,485	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
食事処ほっとリビング 営業収入(円)	914,800	741,600	996,000	794,400	864,100	0	9,388,100
その他営業収入(円) (ゴミ袋・切手等)	370,246	493,424	330,387	223,648	281,305	416,775	3,961,633
手数料収入(円) (自動販売機等)	197,893	205,998	222,904	260,096	201,819	271,846	2,711,593
合計(円)	1,482,939	1,441,022	1,549,291	1,278,144	1,347,224	688,621	16,061,326

(27) 総合福祉センターの運営

① 総合福祉センター利用状況

	24年度	前年比 (%)	25年度	前年比 (%)	26年度	前年比 (%)
会場使用料収入(円)①	1,945,530	87	2,060,817	105.9	2,288,521	111.0
ヘルストロン利用収入(円)②	1,512,200	106.1	1,381,400	91.4	1,103,000	79.8
賃貸料収入(円)③	1,180,496	58.1	5,316,142	450.3	6,144,200	115.6
手数料収入(円)④	329,704	100.4	305,860	92.8	289,135	94.5
利用収入計(円) (①+②+③+④)	4,967,930	82.5	9,064,219	182.4	9,824,856	108.4

※平成26年度は賃貸契約団体に「成年後見センター」を追加した。

② 総合消防訓練

平成27年2月19日(木)の午後、ボランティア連絡協議会と合同で、総合消防訓練を実施した。今回は3階小規模デイスサービス「ふれあい処える」の厨房から出火したという想定で、社協職員は自衛消防隊をはじめとし、それぞれの役割分担(初期消火班・避難誘導班・非常持出班・救助班)に分かれ、センター利用者を西側非常階段より駐車場へ避難させた。従来は1階からの出火想定での訓練であったが、3階にも厨房があることから、初めての試みで、今回の訓練を行った。特に、3階の利用者の避難誘導については臨機応変な対応が求められた。

避難訓練後、けむり体験 TENT や水消火器の訓練もあり、総勢約60名の参加のもと有意義な消防訓練を行うことができた。

(28) 共同募金運動の取組み

地域福祉推進のための貴重な財源である「赤い羽根共同募金」「歳末たすけあい募金」について、福岡県共同募金会と連携して取り組んだ。

①赤い羽根共同募金および歳末たすけあい募金の実績

	24年度(円)	前年比(%)	25年度(円)	前年比(%)	26年度(円)	前年比(%)
赤い羽根共同募金	14,461,125	92.9	14,624,240	101.1	13,919,659	95.2
歳末たすけあい募金	3,399,353	100.9	3,142,692	92.4	2,973,426	94.6

②寄付つき商品の販売

年々減少していく募金実績に、新しい角度から歯止めをかけようと、昨年度から取り組み始めた寄付つき商品のプロジェクト、『募金百貨店おおむた』。初年度である昨年度、30を超える企業の参加があったが、今年度は、その活性化を目指した。

さまざまな周知啓発活動を行った結果、増減はあったものの、参加企業は平成27年1月末で38を数え、市町村単位の参加数としては、2年連続で全国最多となっている。

また、今年度は支店を持つ企業が支店すべてで実施したり、「募金を受け取る側の私たちにも何かできることを」と、大牟田市障害者協議会のアンテナショップ7店が参加したりと、新しい動きもあった。

③共同募金運動への理解

共同募金への理解をより深めてもらうために、募金が何に使われているか、誰のために使われているかなど、「募金の使いみち」を、全戸配布の社協だよりきらり、各報道機関、インターネット上などで丁寧に伝えていった。

また、「実際に募金を受け取っている人」に共同募金運動に深く関わってもらうことで、「受け取る側の意識の向上」「受け取る人が前面に出ることでの用途のわかりやすさ」を目指した。その結果、大牟田市障害者協議会の募金百貨店おおむたへの参加をはじめ、助成団体による街頭募金の実施など、多くの協力を得て共同募金運動を展開することができた。

④配分金用途の透明化

各団体からの助成金申請を配分委員会で審査し配分すること、全世帯配布の社協だよりきらりへ集まった募金の使いみちを掲載すること、各報道機関へ情報提供を行うことなどにより、配分金用途の透明化を図った。平成26年度の共同募金配分委員会では、平成27年度事業として総額10,038,100円の助成先が決定した。

【福祉教育推進校】			
No.	団 体 名	事 業 名	決 定 額
1	誠修高等学校	「ボランティアエステ」(ハンドセラピー)	30,000
2	明光学園中・高等学校	地域高齢者と女子中高生との交流活動	100,000
3	宅峰中学校	「総合的な学習の時間」(学びの旅)	30,000
4	歴木中学校	安心して長生きできる社会を目指して	30,000
5	橘中学校	「総合的な学習の時間」校内環境美化活動	35,000
6	駿馬南小学校	校区ふれあい祭りへの参加と独居高齢者宅訪問	27,500
7	中友小学校	高齢者・保育園児との交流学習、伝統文化の学習	45,000
8	平原小学校	児童への福祉教育(高齢者との交流)	35,000
9	天の原小学校	育てよう福祉の心 広めよう福祉の輪	35,000
10	羽山台小学校	高齢者・障がいのある人との交流を通じた福祉活動の心を育む教育	45,000
11	吉野小学校	福祉教育推進事業	33,000
12	倉永小学校	高齢者との交流学習、福祉に関する講演会等	34,500
13	手鎌小学校	地域伝統文化継承に伴う地域ボランティア活動の活性化	36,000
14	玉川小学校	「体験からの学び」自然・人・もの・ことを大切にす教育の推進	50,000
計			566,000
【福祉団体等】			
1	大牟田市老人クラブ連合会	教養事業費	155,000
2	大牟田市身体障害者福祉協会連合会	社会参加促進事業	250,000
3	大牟田市母子寡婦福祉会	母と子のふれあい事業	100,000
4	NPO法人 大牟田市障害者協議会	パラリン&サンアビ祭り	100,000
5	大牟田市ボランティア連絡協議会	情報交換の場づくり	70,000
6	大牟田朗読の会	朗読・情報発信に関する研修会	50,000
7	大牟田要約筆記の会 のぞみ	難聴者の交流の場づくり	50,000
8	点訳奉仕「大牟田むつき会」	視力障害者のための点訳奉仕	35,000
9	大牟田手話の会「ありあけ」	「1日研修会」	55,000
10	知的障がい児者と保護者、家族の会(心をつなぐ会)	知的障がい児者の医療の充実と啓発	149,000
11	NPO法人おおもむた・わいわいまちづくりネットワーク	自然体験ふれあい事業	144,000
12	障害福祉サービス事業所 ふれんず	社会参加のための障害者施設見学	147,000
13	NPO法人 ともしび会	精神障害者の社会参加促進事業	86,000
計			1,391,000
※助成申請額 合計			1,957,000
大牟田市民生委員・児童委員協議会		共同募金協力団体としての活動費	465,000
大牟田市社会福祉協議会		地域福祉事業全般	890,986
① 助成申請による配分枠 (Aの約35%) 合計			3,312,986
② 校区社会福祉協議会活動費枠 (Aの約65%) 合計			6,725,114
① + ② 大牟田市全体の枠 合計 (A)			10,038,100

⑤広報活動

【街頭キャンペーン】

赤い羽根共同募金運動開始時(10/1)、歳末たすけあい募金開始時(12/1)に、大牟田駅、新栄町駅、イオンモール大牟田、ゆめタウン大牟田で実施した。

今年は実際に募金をもらっている団体にも街頭キャンペーンに参加してもらうなど、新しい試みがあった。

【イベントの開催】

9月13日、「第5回赤い羽根共同募金杯グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバル」を開催した。多くの人々が来場し、当日は「赤い羽根ガラポンくじ」や、「共同募金〇×クイズ」などを行い、共同募金の啓発活動に努めた。

「募金百貨店おおむた」の周知啓発と参加者の継続意欲の向上を目的として、「募金百貨店フェア」を2回開催した。

第1回は9月にゆめタウン大牟田で、第2回は総合福祉センターで「子育てきらりフェスタ」と同時開催で行った。

幅広い層への啓発につながったほか、大牟田商工会議所、大牟田市障害者協議会、明光学園高等学校など、今まで繋がりがなかった団体との新しい関係を築くことができた。

【その他の広報】

共同募金会大牟田市支会専用のフェイスブックページで、共同募金に関するあらゆる情報を素早く伝えた。

新聞掲載依頼も積極的に行っており、新聞掲載された内容のフェイスブック記事には、1,000件を超すアクセスがあった。

⑥募金活動の推進

【赤い羽根自販機の設置推進】

1年を通じて、赤い羽根自販機新規設置先の開拓に努めた。平成26年度末現在、大牟田市内には50台の赤い羽根自販機が設置されており、福岡県内で最多の設置台数となっている。

平成26年3月以降の設置台数は5台。明光学園中学校・高等学校の自販機は、生徒たちがオリジナルデザインを手がけ話題となり、同校で開催された自販機の発表会には、テレビ、新聞各社と、多くの報道陣が集まり、共同募金の大きな啓発の機会となった。

26年3月以降の設置先	台数
帝京大学福岡医療技術学部(岬町)	2
米の山病院	1
明光学園中学校・高等学校	1
おおむたハイツ	1

【法人募金】

校区での募金活動のほか、赤い羽根共同募金は10月上旬、歳末たすけあい募金は12月以降、理事、事務局職員が市内の事業所などを訪問し、募金活動を行った。

また、4校区と連携し、新規法人募金先の開拓を行なったが、4事業所のみという厳しい結果となった。

【募金箱の設置】

運動期間中、社協職員が中心となり市内の事業所へ募金箱の設置依頼を行なった。募金百貨店参加店の全店にも設置した。

【街頭募金】

街頭募金は共同募金の象徴的運動であり、実績額の多少にかかわらず、周知啓発の意味でも実施する意義は大きい。

本年度は、特に実際に募金を受け取っている団体に街頭募金への協力を依頼し、助成団体が共同募金運動に積極的に参加できるようにするとともに、募金する人が、「どのような団体が受け取っているのか」が直接わかる「使いみちのわかりやすい募金」を目指した。

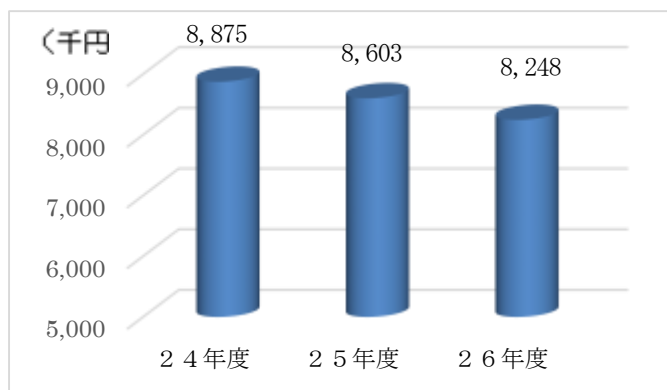
その結果、運動期間中さまざまな団体が、市内各所で31回(10/1、12/1の街頭キャンペーンは除く)もの街頭募金を実施し、募金実績の向上と、周知啓発を行った。

(29) 日本赤十字大牟田市地区業務の取組み

① 日赤募金(社資)実績の推移

(単位：円)

	24年度	前年比 (%)	25年度	前年比 (%)	26年度	前年比 (%)
日赤募金 (一般社資)	8,629,984	93.2	8,358,489	96.9	8,007,548	95.8
日赤募金 (法人社資)	245,000	108.9	245,000	100.0	240,000	98.0
計	8,874,984	93.7	8,603,489	96.9	8,247,548	95.9



② 平成26年度大牟田市の献血実績について

(単位：人)

区分	受付者	献血者	不適
地域 (校区21回 LC3回 JC2回)	2,138	1,829	309
職域別 (30回)	1,495	1,336	159
学域別 (7回)	584	501	83
街頭 (イオンモール大牟田 12回)	1,012	860	152
合計	5,229	4,526	703

③ 献血啓発セミナーの開催

大牟田市では、21校区の献血推進会やライオンズクラブ、青年会議所、事業所等の協力を得て毎年献血会を行っているが、献血者数は減少傾向にある。今年度は、若い世代に献血への理解を深めてもらい将来の献血協力者となってもらうために赤十字血液センター職員を講師に献血啓発セミナーを開催した。

④ タオル帽子の取組み

月日	対象	参加者数	講師	会場
8月8日(金)	大牟田学童保育所児童・指導員	30人	赤十字血液センター職員2名	大牟田学童保育所
1月21日(水)	三池工業高等学校3年生・教員	192人	赤十字血液センター職員1名・社協職員	三池工業高校
3月26日(木)	手鎌学童保育所児童・指導員	43人	赤十字血液センター職員2名	手鎌小学校

市社協では、昨年度よりがんの化学療法等の副作用による脱毛で苦しむ患者さんへ、タオル帽子を無料でさし上げる取組みを行っている。昨年度開催した「タオル帽子ボランティア養成講座」の受講生6名がボランティアの会を立ち上げ、約300枚のタオル帽子を作成した。このタオル帽子は、大牟田市社会福祉協議会を通じて、必要とされる患者さんへ差し上げたり、近隣の病院への定期的な寄贈を行っている。この取組みを広げるために下記の講座を開催した。

月日	講座	受講者数	講師・指導	場所
3月25日(水)	笑がおのタオル帽子を作ろう	17人	末次 由美 ボランティア5人	三川地区公民館

⑤火災等の被災者への対応

市内の住居の火災被災者に対して調査のうえ、日本赤十字社救援物資(災害見舞い品)を配布した。
(平成26年度日赤救援物資配布件数)

	世帯数	世帯人数	布団	毛布	医薬品セット	緊急セット	炊具セット
全 焼	8	17	13	15	8	8	12
半 焼 (水損により全 焼扱)	5	10	8	10	5	5	5
合 計	13	27	21	25	13	13	17

(30)地域福祉におけるファンドレイジングの調査研究

①社会福祉法人、特に社会福祉協議会の経営、ファンドレイジングに関する調査研究(厚労省・社会福祉推進事業補助)

少子高齢化、核家族化、地域組織の弱体化など、地域をとりまく環境が厳しくなっている中、地域課題も多様化している。しかし、全国の社会福祉協議会では常に財源不足の状況にあり、課題解決に向けて十分に取り組めていない現状がある。

そこで、ファンドレイジング(財源確保)に取り組んでいる先進地の社協・共同募金会のファンドレイジングにおけるプロセスや職員養成、外部との連携状況について実態を明らかにすること、今後の取り組みに再現可能なモデル化とそれを担当できる職員養成をすることを目的に、厚生労働省社会福祉推進事業「社会福祉法人、特に社会福祉協議会の経営、ファンドレイジングに関する調査研究」を実施。全国の社協、共同募金会へのアンケート調査および先進地区社協へのインタビュー調査を行った。

②地域福祉におけるファンドレイジング～調査報告および研修会～(厚労省・社会福祉推進事業補助)

主に九州地区の社協、共同募金会、行政職員等を対象に、先のアンケート調査およびインタビュー調査の結果報告、先進地区社協のパネルディスカッション等の研修会を開催した。

また、赤い羽根共同募金の寄付つき商品を販売する「募金百貨店おおむた」参加店による出張即売会を開催し、寄付つき商品の先進地である大牟田市における取り組みを紹介した。

【開催日】 平成27年2月28日(土)

【会 場】 オームタガーデンホテル

【内 容】 地域福祉におけるファンドレイジング調査報告、
パネルディスカッション、募金百貨店おおむた出張販売

【参加者】 約80名

※成果物名称：「社会福祉法人、特に社会福祉協議会の経営、
ファンドレイジングに関する調査研究事業」全125ページ

(31)各種寄贈及び助成について

平成27年3月、公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会様より福祉車両の寄贈を受けた。

(32)東日本大震災復興支援活動について (～支援から始縁へ～)

2011年3月11日、東北地方を中心とする広い範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災。「遠く離れた大牟田の地でも何かお手伝いできることはないか！」

震災後、大牟田市介護サービス事業者協議会、大牟田市障害者協議会、大牟田市、大牟田市社会福祉協議会によって立ち上げられた「東日本大震災復興支援“絆”プロジェクトおおむた(以下、絆プロジェクト)」は、今日まで南三陸町をはじめ、石巻市、女川町、松島町などの被災地への継続的な支援と、震災の記憶を風化させないよう広く伝えていくことを目的として、様々な活動を行ってきた。

平成26年度、絆プロジェクトは、これまでの支援活動を総括し、「活動の軌跡」として、平成27年3月13日、大牟田文化会館に於いて、南三陸町すばらしい歌津をつくる協議会事務局員を招いて「東日本大震災復興支援活動報告会」を開催した。

これまで、絆プロジェクト活動を物心両面で支えていただいた市民の皆様への感謝を伝えるとともに、4年間の絆プロジェクト活動の記録をDVDにまとめた。

今後、絆プロジェクト活動は、支援の要請がある時に絆プロジェクトを構成する団体がそれぞれの立場でできる支援を続けることになり、4年間の活動に区切りをつけることになった。

<p>【4年間の主な活動実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■プロジェクトメンバーの南三陸町等への継続的な派遣 ■東日本大震災復興支援のための義援金・支援金の募集 ■仮設住宅のコミュニティ創出（お茶っこの場）のための絆ベンチの設置 ■大牟田・松島 竹灯籠コラボレーション、竹灯籠「南三陸町歌津・鎮魂のタベ」 ■被災地の物品販売支援、オリジナル・コラボ商品の開発 ■震災の支援活動を通して「語りべ」として、市民や様々な団体、教育機関への周知啓発活動 ■ヤヨイ食品の従業員家族の皆さんや大牟田へ避難されてきた方々を対象に、 Ochakko in おおむた（お茶っこの場）の開催 ■「未来への遺言」の編集協力をはじめ様々な機関への広報、情報提供活動 等々
--

(平成26年度絆プロジェクトの活動報告)

日程	活動内容
4月17日～4月21日	南三陸町：すばらしい歌津をつくる協議会定例会 絆プロジェクト新担当者紹介 その他訪問先：あがらいん・風の里・のぞみ・南三陸町社協運営生活支援センター・伊里前商店街・クチバシカジカ工房・歌津木工所・YES工房・みうら海産物（南三陸町）、みちのく青葉屋・雄勝診療所（石巻市）、JDF被災地障がい者支援センター（福島県郡山市）
5月20日	絆プロジェクト実行委員会総会（於：総合福祉センター）
6月14日～6月15日	南三陸町：すばらしい歌津をつくる協議会事務局との打合せ *「伊里前ワールドカップパブリックビューイング」会場設置 準備・運営サポート
8月9日～8月11日	南三陸町：すばらしい歌津をつくる協議会事務局との打合せ *「南三陸町歌津夏祭り」会場設置準備・運営サポート
9月13日	みちのく物産品：「絆フェスティバル」（諏訪公園）
9月13日～14日	*「ツールド東北」伊里前エイド運営バックヤード支援
11月18日～20日	*「被災地に学ぶ地域づくり」駿馬南校区民生委員視察研修 南三陸町歌津地区、平成の森 （すばらしい歌津をつくる協議会より講話） その他訪問先：ヤヨイフーズ（気仙沼）、松島、瑞巖寺（竹灯籠）、円通院
12月25日	絆プロジェクト実行委員会（総合福祉センター）
1月28日	絆プロジェクト報告会打合せ（総合福祉センター）
1月31日～2月1日	*3月13日開催の報告会事前打合せ、 絆プロジェクト活動総括に向けての各地取材
2月12日	絆プロジェクト報告会打合せ（総合福祉センター）
3月9日	絆プロジェクト報告会打合せ（総合福祉センター）
3月11日	上映会：「ガレキとラジオ2014」 （総合福祉センター10：00・14：00・18：00）
3月13日	報告会：東日本大震災復興支援報告会 「支援から始縁へ」（大牟田文化会館）
3月14日～16日	*絆プロジェクト活動終息挨拶 南三陸町・石巻市・雄勝町・松島町

※平成26年度プロジェクト活動支援金状況（H27.3.31現在）

支援金総額：240,157円（延24件）

※平成26年度絆プロジェクト復興商品売上状況（H27.3.31現在）

売上総額：1,030,800円

(33)福祉バス等貸出事業

福祉団体等の福祉増進のため、各種大会や研修会等の参加に際して福祉バスを運行した。また、福祉行事のための荷物等を運搬する軽トラックの貸出も実施した。

	24年度		25年度		26年度	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
福祉バス利用状況	98	3,331	77	2,808	84	2,835
軽トラック利用状況	6		3		6	

(34)他都市よりの視察状況

月 日	視察受入	研修内容
5月 8日	久留米市社協	大牟田市成年後見センターの取り組みについて
5月14日	中間市介護保険課	小地域ネットワーク活動について
7月17日	北九州市八幡西区社協	認知症の取り組みについて
7月18日	志免町社協、福祉課	子ども民生委員の取り組みについて
7月24日	飯塚市社協	防災運動会について
7月29日	益田市議会	大牟田市成年後見センターの取り組みについて
7月30日	久留米市長寿支援課	大牟田市成年後見センターの取り組みについて
10月 2日	熊本市・熊本市社協	大牟田市成年後見センターの取り組みについて
10月 9日	糸島市長糸校区社協	認知症の人と社協の関わりについて
11月21日	うきは市社協	大牟田市成年後見センターの取り組みについて
1月23日	荏田町社協	キャロットサービスについて
1月27日	芦屋町役場福祉課	官民協働他職種連携について
3月20日	みやま市開校区社協	居住支援協議会の取り組みについて
3月27日	NPO浜松成年後見センター	大牟田市成年後見センターの取り組みについて